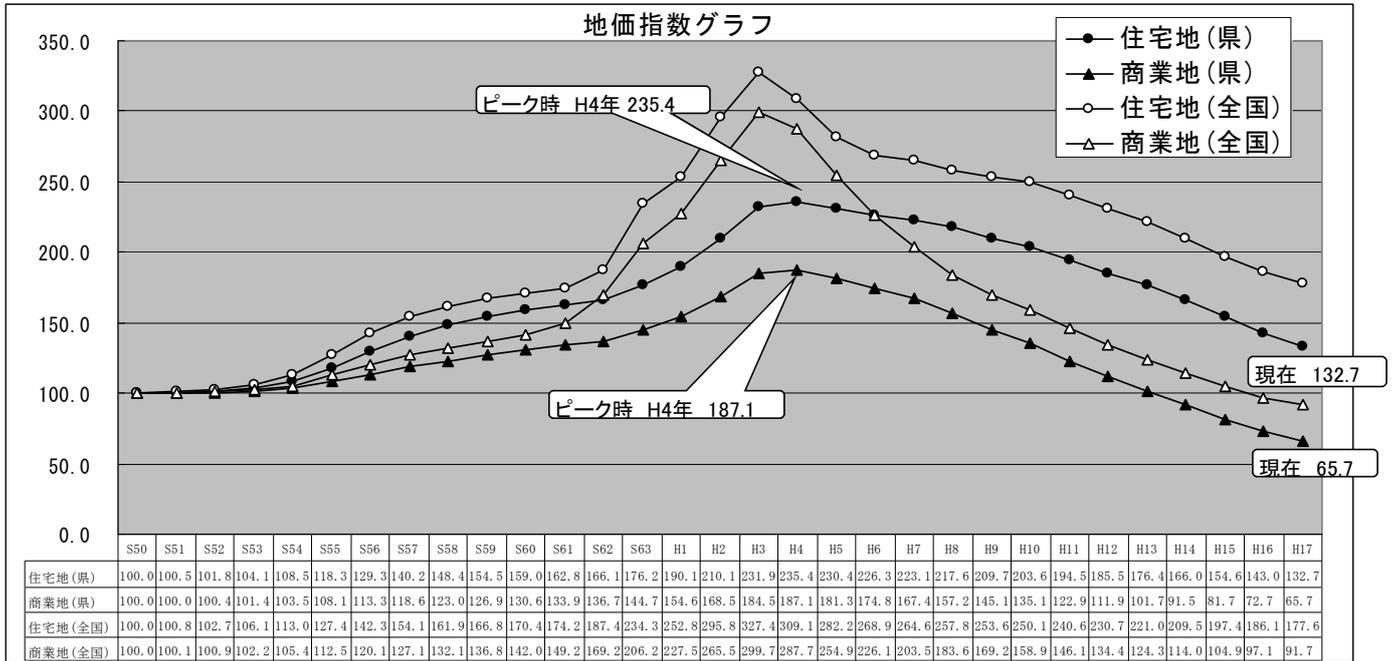


指数による比較（昭和50年～平成17年）

住宅地及び商業地の地価の推移（用途別平均変動率による指数：昭和50年＝100）

- ・ 住宅地（県）は132.7で、昭和56年をやや上回る程度の水準となっている。
- ・ 商業地（県）は65.7で、昭和50年の100を大きく下回っている。



（参考）県内の地価のピーク時の平成4年を100とした場合の指数

住宅地：56.4（全国57.4） 商業地：35.1（全国31.9）

※ 指数の作成方法

（前年の指数）×（当年の用途別平均変動率（継続地点の変動率の和／継続地点数））

注）地価公示の調査開始年は昭和46年からであるが、当初は三大都市圏や市街化区域のみなど調査地域が限られており、現在の調査区域と概ね同様となった昭和50年を基準として指数を作成している。（昭和50年は地価調査の開始年でもある。）